

特長

- サーバベースのクロスドメイン自動化で、ビジネスの俊敏性を向上しイノベーションを促進
- インフラストラクチャのプロビジョニング、検証、トラブルシューティング、および修復ワークフローを自動化
- リアルタイムでのネットワーク分析、モニタリング、トラブルシューティングでのトラフィックの広範な可視化による運用の改善
- ソフトウェア・アップグレードを通じて新しいプロトコルやテクノロジーを導入できるプログラム可能なASICにより、フォークリフト・アップグレードを最小限にとどめる
- リーフ、スパイン、スーパー・スパイン、WAN エッジで柔軟性のある高性能のプラットフォームにより、データセンターを優れたコスト効率で拡大



ExtremeSwitching™ SLX シリーズ: 俊敏なデータセンターのためのポート フォリオ

俊敏なデータセンター・ネットワークが広範囲な 可視化と自動化を要求

企業のリーダーは、イノベーションを促進して競争優位性を維持するためにデジタル化が必要であり、そうでないと動きの速い競争相手に取って代わられるリスクがあると認識しています。IDCによると、Global 2000社のCEOのうち3分の2は、2017年末までにデジタル・トランスフォーメーションを自社の戦略の中心に据えるということです。トランスフォーメーションを牽引するために必要となる迅速なイノベーションは、俊敏性に優れたIT基盤があつて初めて実現できるもので、そこにはシームレスな自動化と、あらゆるITドメインや機能をつなげるネットワーク可視化も必要です。

データセンター・スタックの全てのレイヤーで俊敏性を 提供

Extreme SLXスイッチングおよびルーティング・プラットフォームは、SLX Insight ArchitectureとSLX Visibility Servicesによって類のないネットワーク可視化を実現します。これらの組み込み機能により、ネットワーク全体の広範な可視化を達成できるようになり、問題の速やかな特定、平均修正時間の短縮、全体のサービス・レベルの向上が促進されます。広範な可視化とWorkflow Composer™自動化プラットフォームを組み合わせれば、最新鋭のデータセンターで要求される俊敏性を持ってネットワーク・インテリジェンスに従った行動を起こすことができます。SLXファミリーには、リーフやスパインからスーパー・スパインやWANエッジに至るまでネットワークのさまざまな場所に応じて最適化された幅広いプラットフォームが含まれています。デジタル時代に最適化された自動化、可視性、およびプラットフォームで構成される包括的なポートフォリオにより、データセンター・ネットワーク・スタック (図1を参照) のあらゆるレイヤーやドメイン (アプリケーション、コンピューティング、ストレージなど) 間で俊敏性を実現します。

¹ IDC Analyst Connection, 「データセンターのネットワークを刷新してデジタル・トランスフォーメーションに対応」、2016年9月。

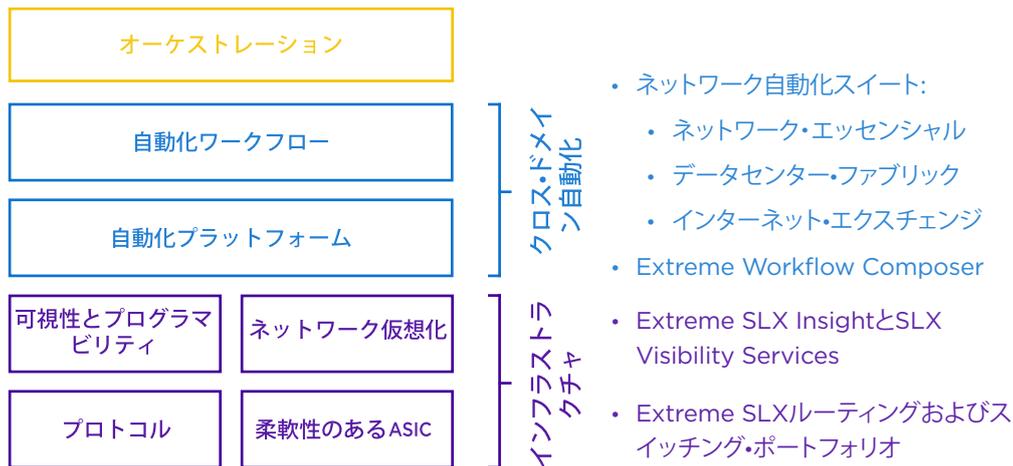


図1: SLXポートフォリオは、データセンター・スタックのあらゆるレイヤーで俊敏性を提供します。

幅広い SLXポートフォリオ

SLX スイッチング・ポートフォリオ (図2) は幅広く、ネットワークのさまざまな場所や、リーフ、スパイン、スーパー・スパイン、データセンター・インターコネクต์に渡るデータセンター設計に適しています。ネイティブ25 GbE SLX 9140はリーフへの導入に、高密度100 GbE SLX 9240はスパイン・レベルでのサービス提供に最適です。多機能型の SLX 9540は、ボーダー・リーフやWANエッジ導入で高度なルーティングやMPLS機能を提供します。拡張性の高い SLX 9850ルータは、スパイン、スーパー・スパイン、ボーダー・リーフ、コア、WANエッジ、データセンター・インターコネクต์に広がる複数のユースケースをサポートします。各プラットフォームの詳細については、それぞれのデータ・シートを参照ください。

SLX 9140リーフおよび9240スパイン・スイッチ

SLX 9140リーフ・スイッチは、1Uのスペースに48個のネイティブ25 GbEサーバポートと6個の100 GbEポートを備えています。また、柔軟性の高い1/10/25/40/100 GbE構成オプションも用意されています。

SLX 9240スパイン・スイッチは、1Uのスペースに32個の高密度100 GbEポートを備えています。

SLX 9140および9240スイッチの両方がこのクラス初となるプログラム可能ASICを搭載し、新機能をソフトウェアを通じて迅速に提供できます。新しいテクノロジーやプロトコルが導入されるとき、コストのかかるフォークリフト・アップグレードは必要ありません。

詳細については、「ExtremeSwitching SLX 9140のデータ・シート」および「ExtremeSwitching SLX 9240のデータ・シート」を参照してください。

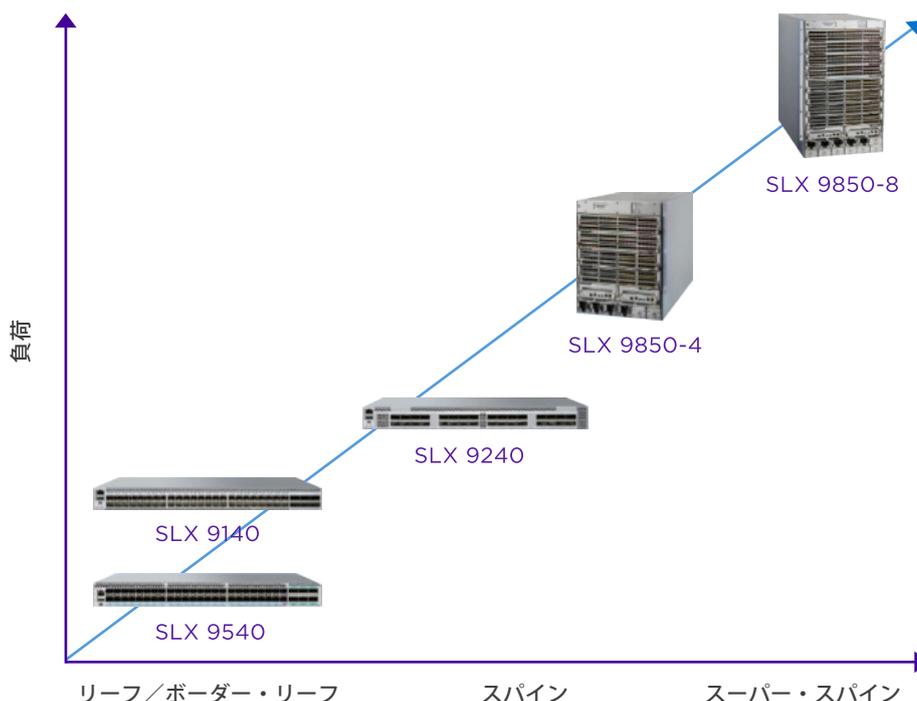


図2: SLXスイッチングおよびルーティング・ポートフォリオ

SLX 9540エッジ・スイッチ

SLX 9540スイッチは、データセンター・インターコネクト、WANエッジ、インターネット・エクスチェンジ・ポイントの配備に適したコスト効率のよいIUサイズでキャリア・クラスの機能を提供します。48個の10 GbEポートと6個の100 GbEポートを装備しています。詳細については、「ExtremeSwitching SLX 9540のデータ・シート」を参照してください。

SLX 9850コア・ルータ

SLX 9850ルータは、230テラビットの拡張性、リアルタイムのネットワーク可視化、およびDevOpsスタイルの自動化により、デジタル・ビジネス環境で急増し続ける拡張ニーズ、分析ニーズ、俊敏性ニーズに速やかに対処します。オープンで柔軟性に優れたプラットフォームが、高性能なサービスをオンデマンドで提供できる能力をサービス・プロバイダと企業に提供します。詳細については、「ExtremeSwitching SLX 9850のデータ・シート」を参照してください。

柔軟性の高いネットワーク 仮想化オプション

SLXに基づいたデータセンター・ファブリックは、柔軟なネットワーク仮想化もサポートしています。たとえば、VMware NSXなどのコントローラベースのアーキテクチャや、Border Gateway Protocol-Ethernet Virtual Private Network (BGP-EVPN) を利用した標準ベースのコントローラレス・アーキテクチャをサポートしており、データセンター内部とデータセンター間におけるワークロードの俊敏性、セキュリティ、セグメント化を実現します。SLXプラットフォームが備えるASICベースのVXLANTンネル・カプセル化でオーバーレイ・パフォーマンスが最適化されるため、損失なくスピードを確保できます。SLXファミリーの拡張機能や豊富な可視性機能と組み合わせることで、仮想的なデータセンター・ネットワークと物理的なデータセンター・ネットワークをシームレスに運用できます。

広範なネットワーク可視化とプログラム 可能インタフェース

ネットワーク可視性をそれぞれのルータやスイッチに組み込むことで、動的なフロー識別、インテリジェントな前処理、柔軟なデータ・ストリーミングを利用した広範できめ細かなリアルタイムのネットワーク・モニタリングおよびトラブルシューティングが可能になり、ネットワークの運用を向上させ、運用コストを削減できます。SLX Insight ArchitectureおよびSLX Visibility Servicesは、ネットワークのモニタリングとトラブルシューティングを行うための新たなアプローチを提供します。これにより、ネットワークの運用や自動化に必要なリアルタイムでの包括的な可視化を、より迅速に、簡単に、コスト効率の優れた方法で実現できます。

SLX Insight Architecture

SLX Insight Architectureでは、運用効率やトラブルシューティングを向上できます。豊富なフィルタリング機能によって可視化処理に必要なトラフィックのみをキャプチャします。オープンなゲストVM環境は、サードパーティ製のモニタリングおよび分析アプリケーションをスイッチやルータで直接実行でき、専用の内部分析パスお

よび高性能のデータ・ストリーミング・オプションと一緒に使用することで、多数のネットワーク分析ツールと簡単に統合できます。

SLX Visibility Services

SLX Visibility Servicesと、その豊富な分類とネットワーク規模でのワークロード・マッチングのサポートにより、高度に分散したマルチティア・アプリケーションを可視化できます。複数のネットワーク・レイヤーから収集される物理的および仮想的なネットワーク・トラフィック・データは、ネットワーク全体にオーバーレイおよびワークロードの可視化をもたらします。ルール・ベースのアクションは受信ネットワーク・トラフィックに自動的に適用され、コンテキスト豊富なデータはSLX Insight Architecture、Workflow Composer、またはサードパーティ製の分析およびモニタリング・アプリケーションに提供できます。

すぐに利用できるカスタマイズ可能な ライフサイクル自動化

DevOpsの手法に基づくサーバベースのネットワーク自動化プラットフォームであるWorkflow Composerは、プロビジョニングから検証、トラブルシューティング、修復までの、ネットワークのライフサイクル全体を自動化できます。SLXルーティングおよびスイッチング・プラットフォームは、このWorkflow Composerを活用することで、ITの俊敏性を最大限に高めます。さらに、ITドメイン間を統合することで、エンド・トゥ・エンドのイベント駆動型のワークフロー自動化を可能にします。詳細については、「Extreme Workflow Composer by StackStormのデータ・シート」を参照してください。

Workflow Composerプラットフォームと連携するように設計されたエクストリームの自動化スイートは、自動化を導入したいものの、自動化のための開発スキルとリソースが限られているIT組織に最適です。一般に実行されるタスクに関してすぐに使えるネットワーク・ライフサイクル自動化を備え、主要なユースケースに対処するようにパッケージ化されています。

- ネットワーク・エッセンシャル: リソースが限られている組織が速やかに稼働できるようにする基本的なビルディング・ブロック(大半のネットワークに共通するステップを自動化するワークフローなど)。
- データセンター・ファブリック: データセンター・ファブリックのプロビジョニング、トラブルシューティング、修復に特化したワークフローのコレクション (IPファブリック展開など)。
- インターネット・エクスチェンジ・ポイント: レイヤー2インターネット・エクスチェンジ接続に関連したステップを自動化するワークフロー (テナントのプロビジョニングや保守など)。

それぞれの自動化スイートは、ドキュメントと、すぐに利用できるカスタマイズ可能なワークフロー、サービス、センサー、アクション、ルールで構成されています。エクストリームの自動化スイートは、そのまま使用することも、データセンターの要件に合わせてワークフローを構築またはカスタマイズするためのスタータ・キットとして使用し、価値を生み出すまでの時間を短縮することもできます。詳細については、「Extreme Workflow Composer自動化スイートの概要」を参照してください。

オーケストレーションのためのオープン・アーキテクチャ

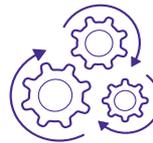
エクストリームのソリューションは、オーケストレーション・エコシステムで機能し、組織でよく使われるシステムがどのようなものであってもスムーズな相互接続性を実現します。VMware vRealize、Nutanix Acropolis、OpenStack Neutronと統合すると、物理ネットワークからの情報をオーケストレーション・レイヤーで共有できます。Workflow Composerを利用すると、このプロセスを双方向で自動化できるため、IT性能の包括的な全体像を得るためにネットワーク・データを使用できます。SLXスイッチングおよびルーティング・プラットフォームのオープンで柔軟性の高いアーキテクチャとComposerを組み合わせることで、物理ネットワークと仮想ネットワークの両方でオーケストレーション・アクションを簡単に実行できます。

デジタル時代のインテリジェントな自動化と俊敏性を実現する基盤

エクストリームのデータセンター・ポートフォリオ (表1を参照) は、SLXルータおよびスイッチ、SLX Visibility Services、SLX Insight Architecture、Workflow Composerプラットフォームおよび自動化スイートを揃えており、データセンター・スタックのあらゆるレイヤー (プログラム可能ハードウェアからオーケストレーションまで) およびドメイン (アプリケーション、コンピューティング、ストレージなど) 間で俊敏性を提供します。このようなポートフォリオにより、組み込み型のネットワーク可視化機能を利用して、ネットワーク・ライフサイクルの全体にわたるインテリジェントな自動化を可能にします。すべてのレイヤーでオープンなエクストリームのコンポーネント化された次世代データセンター・テクノロジーは、統合ソリューションとして展開することも一般的な業界自動化または分析ツールと併用することもでき、デジタル・トランスフォーメーションにおける柔軟性を得られます。

エクストリーム ネットワークスについて

エクストリーム ネットワークスのネットワークソリューションは、アプリケーションと情報が各所に点在する世界に移行することで重要なイニシアチブを達成できるよう、組織を支援しています。今日、エクストリームは、統合、仮想化、クラウド・コンピューティングのために構築されたオープンで効率的な仮想化ソリューションを活用して、データセンターに関する確かな専門知識をネットワーク全体に展開しています。詳細については、jp.extremenetworks.comをご覧ください。

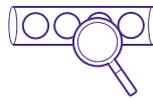


DevOpsスタイルの自動化

Workflow Composerプラットフォームおよび自動化スイートは、クロスドメインのイベント駆動型の自動化によって、ITの俊敏性を向上し、イノベーションを促進します。

組み込み型のネットワーク可視化機能

SLX Insight ArchitectureおよびSLX Visibility Servicesは、広範なリアルタイムのモニタリングおよび自動化アクションについてワイヤからワークロードまでネットワーク可視化を実現します。



適応性のあるプラットフォームの柔軟性

SLXのポートフォリオは、プログラム可能なASIC、オープンなAPI、および最新の速度、標準、プロトコルに適応した設計によって、データセンター・スタックのあらゆるレイヤーで俊敏性を提供します。

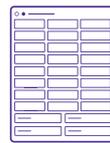


図3: SLXの俊敏なデータセンターのポートフォリオの主な利点のカテゴリ